知ってほしい！

ユニバーサルデザイン パンフレット

相模原市では、「すべての人にやさしい都市」の実現に向けて、
ユニバーサルデザインの普及啓発を行っています。
このパンフレットは、すべての人が快適に暮らせる社会を目指し、
「ユニバーサルデザイン」について知っていただくために作成しました。
ぜひこのパンフレットを活用し、ユニバーサルデザインの考え方を
身近なものとして感じていただければ幸いです。

相模原市

1 ユニバーサルデザインとは

ユニバーサルデザインとは、障がいの有無、年齢、性別、人種等に関わらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。

社会の様々なシーンで取り入れられており、すべての人が暮らしやすい環境をつくる重要な考え方です。

ユニバーサルデザインには７つの原則があります

1. 誰でも公平に利用できること
2. 使う上で自由度が高いこと
3. 使い方が簡単であること
4. 必要な情報がすぐに理解できること
5. うっかりミスや危険につながらないデザインであること
6. 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること
7. 利用しやすいスペースと大きさを確保すること

相模原市のユニバーサルデザイン

市内に住んでいる人、訪れる人、働いている人など、市内のすべての人々が快適に過ごせるようハード面とソフト面の両面から“暮らしやすい”“訪れやすい”“働きやすい”というような誰にとっても「やさしい都市」を目指しています。

○ハード面

道路や建物、道具や機械など物理的な要素の整備

○ソフト面

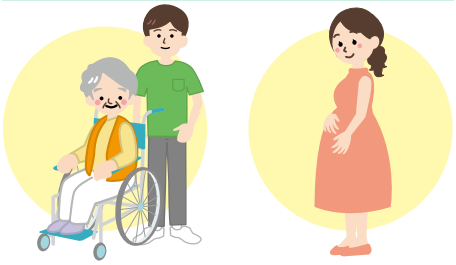
一人一人を支え、助ける仕組みや支援、誰にでも伝わる情報やサービスの提供

※多様性を尊重し、相互に理解を深める「心のバリアフリー」もソフト面に含まれます。

2 心のユニバーサルデザイン

やさしい都市を進めるためにはハード面とソフト面の両面から取り組む必要があります。自分のことだけを考えるのではなく、自分と違う立場の人に気づき、他人を尊重して、互いを自然に支えあうことができるよう相互理解を深める必要があります。

車いす利用者・けが人・妊産婦・乳幼児連れ



- 段差や道路の隙間を乗り越えるのが困難。
- 落ちたものを拾うのが困難。
- 高いところのものがとれない。
- 立ち上がったり、座ったりすることが大変。

高齢者

- 足腰が弱くなりつまずきやすい。
- 小さな文字が見えにくく、音や声が聞こえにくい。
- 重い荷物を持つのが大変。
- デジタル機器の使い方が難しい。

外国人等

- 日本語の案内や説明がわからない。
- 文化・宗教・習慣の違いから、誤解を受けることがある。

視覚障がい者

- 全盲・弱視・色覚障がい等様々な見え方の人がいる。
- 案内表示が見えにくい。
- 階段や段差につまずきやすい。

聴覚障がい者

- 複数の会話や会議が聞き取りにくい。
- 音声だけの情報ではわからない。

精神・知的・発達障がい者

- 自分が困っていることがわからない、あるいは、うまく伝えられない。
- 人との関わりやコミュニケーションが取りにくい。

内部障がいがある人

- 外見からでは障がいがあるかわかりにくく、疲れやすさや、体調の悪さの理解が得られにくい。

高齢者や障がいのある人だけではなく、けがをしたとき、重い荷物を持っているときなど日常生活の中で助けられた経験はありませんか?社会には様々な人がいて、困りごとはその人、その状況によって違います。困っている人がいたら、「何かお困りですか?」「何かお手伝いできることはありますか?」と声をかけてみましょう。様々な人の特性や困っていることを知り、相手の立場に立って考える事、思いやりのある行動をすることが心のユニバーサルデザインに繋がります。

3 情報伝達のユニバーサルデザイン

スマートフォンの普及や高度情報通信技術の発達により場所や時間にとらわれずに情報を入手できるようになった一方、加齢、身体的条件、利用環境の制限等により入手できる情報に格差が生まれているため、すべての人が簡単に必要な情報を入手できるよう、わかりやすい情報の発信や提供が必要になります。

読みやすい工夫

文字の大きさ

10ポイント
相模原市ユニバーサルデザインパンフレット

12ポイント
相模原市ユニバーサルデザインパンフレット

文字の大きさや行間の広さに配慮し、文章を作成することで誰にでも読みやすい文章を作成できます。

UDフォントの例　※右側がUDフォント

・間口を大きくしている

6 ▶ 6　9 ▶ 9

・濁点部分に切れ込みを入れて見やすくしている

ブ ▶ ブ

読みやすく、誤読を防ぐよう工夫された文字です。

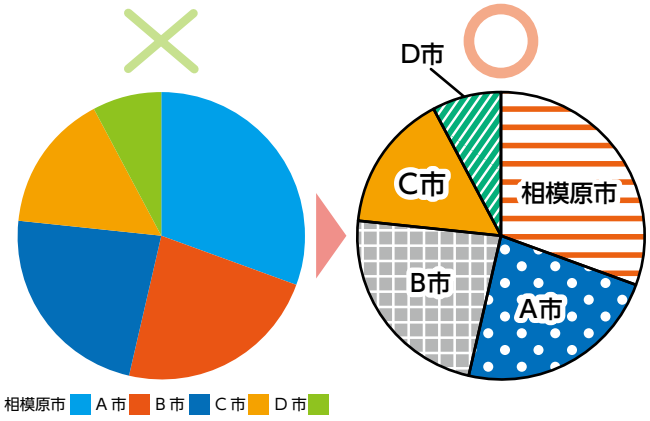
色の組み合わせ表現方法

色使い

	見分けにくい色の例	見分けやすい色の例
白色と黄色	相模原 / 相模原	相模原 / 相模原
赤色と緑色	相模原 / 相模原	
黄色と黒色		相模原 / 相模原

色に頼らない表現

境界に線を入れる、模様を入れる、直接説明を付けるなど分かりやすくする。



誰もが同じ色の見え方をしているわけではなく、色による情報を正しく受け取れない方もいるため、誰にとっても分かりやすい色づかい、色に頼らない表現が求められます。

4 モノづくりのユニバーサルデザイン

日常的に使う様々なものにも取り入れられています。障がいの有無、年齢、性別、人種等に関係なくすべての人が使いやすく、簡単に利用できるように工夫されたデザインが特徴的です。

シャンプー・リンス

シャンプー

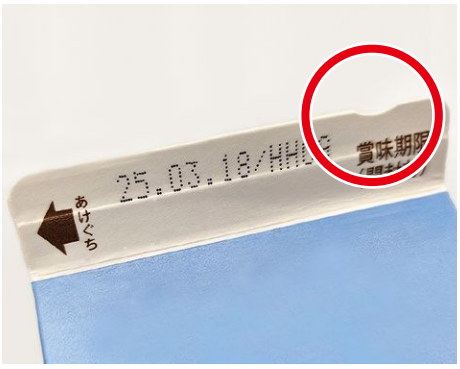
リンス　　リンス

シャンプーのボトルの側面やキャップに凹凸をつけてリンスと区別がつくようになっていて、視覚障がい者や、洗髪中に目を閉じていてもわかるようなデザインになっています。

アルコール缶

視覚障がい者が酒類だとわかるよう、「おさけ」と点字を入れています。

牛乳



他のパック飲料と区別できるよう、牛乳パックには上部に小さなくぼみ（切り欠き）があります。

切り欠きの反対側が開け口とわかるようになっています。

リモコン

テレビのリモコンの数字の「5」の部分に点字がついています。

リモコンの中心である「5」に点字をつけることで、ほかの数字ボタンの位置がわかりやすくなっています。

紙幣

新紙幣になり、旧札より数字が大きくなりました。

視覚障がい者や外国人など識字が難しい方でも種類を判別しやすいよう、指の触感で識別できるマークが入っており、お札ごとに場所が違うので識別しやすくなっています。

ペットボトル

軽く、くびれのある形をしているため子どもや高齢者、握力の弱い人でも持ちやすくなっています。

また、凹凸が多いのでプラスチックのラベルが剥がしやすくなっています。

5 建物のユニバーサルデザイン

多くの人が集まる建物の中で快適かつ安全に過ごすために障がいの有無、年齢、性別、人種等に関わらず移動や案内を受けられるような設計が行われています。

エレベーター

エレベーターは、すべての人が安全に利用できるように設計されており、ゆっくり閉まるドアやドアセンサーは、車椅子やベビーカーを利用する人がドアに挟まれるリスクを軽減します。

音声案内や視覚的な表示により、視覚や聴覚に障がいのある人々も安心して利用できます。

多目的トイレ

多目的トイレは、乳幼児を連れている人、介助・同伴が必要な人、車いすや杖を使用している人、人工膀胱・人工肛門を保有している人、性的マイノリティの人等、多様な特性を持つ人が利用できるトイレとなっています。

照明スイッチ

大きな面の照明スイッチは小さな力で切り替えられるようになっており、指の力が弱い人でも扱いやすくなっています。

また、大人も子どもも手が届く範囲に設置されています。

センサー蛇口

センサー蛇口は自動的に水が出るので、栓をひねらず手を洗えます。

蛇口に触ることなく水を止めることができるため、感染対策としても効果的です。

6 まちのユニバーサルデザイン

すべての人が快適かつ安全に暮らし、参加できる社会を実現するためには、まち全体が利用しやすい空間であることが必要です。まち全体の環境整備に努めることにより、すべての人々にやさしいまちづくりを進めます。

歩道

幅広い歩道は車いすやベビーカーを利用する方がスムーズに通行できます。また、周りの人を気にすることなく通行でき、自転車の通行と区別できるため安全性が高くなっています。

点字ブロック

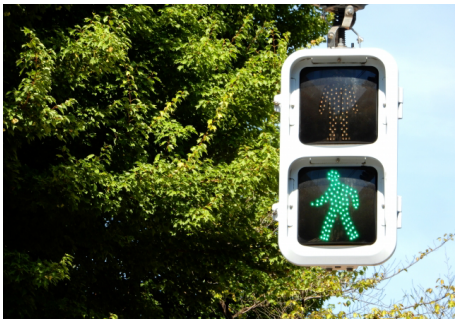
点字ブロックは視覚障がい者が方向を確認しながら歩けるよう設置されたものです。

停電時や、暗い場所での目印にもなります。

標識・ピクトグラム

交差点や道路に行先の表示や周辺地図などを案内する標識を設置して、移動に役立つ情報をわかりやすく伝えます。ピクトグラムを設置することで子どもや外国人にも伝わりやすくなっています。

信号



信号灯は色覚障がい者も判別しやすい色が使われています。音の出る信号機は「カッコー」と「ぴよぴよ」の音を使い分け、方向と距離をわかりやすくする工夫もされています。

インクルーシブ遊具

インクルーシブ遊具とは、身体能力や障がいの有無を問わず、誰もが楽しく安全に遊べるよう配慮された遊具です。いろいろな子どもたちが一緒に遊ぶ機会を通して、相互理解が深まる環境としても期待されています。

段差

公園の出入口にある段差を解消し、車いすやベビーカー、子どもや高齢者、妊婦、松葉杖の利用者といった、段差でつまずきやすい人や、キャリーバッグを引いた人等が乗り入れしやすくなっています。

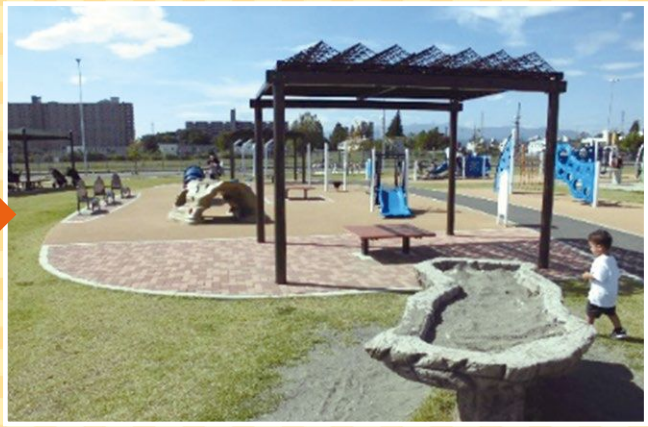
相模原市の事例

さがみはら“ゆめ”プロジェクト

障がい者スポーツの振興や多様性についての理解を促進するため、障がいのある人とない人がスポーツを通じて交流できる、パラテニスの体験イベントなどを開催。

インクルーシブ遊具の導入

相模原スポーツ・レクリエーションパークの遊具広場に、子どものひらめきや遊ぶ力を育むスペース、車いすでアクセスできる砂場などすべての人が楽しめるインクルーシブ遊具を整備。



広報さがみはら・市ホームページ

本文にユニバーサルデザインフォントを使用。色の識別がしやすいよう、カラーバリアフリーに配慮しているほか、外国人向けに翻訳言語数の拡充に取り組んでいる。

発　　行：相模原市
問い合わせ先：相模原市 健康福祉局　地域包括ケア推進部　地域包括ケア推進課
〒252-5277 相模原市中央区中央 2-11-15
TEL：042-769-9222　FAX：042-759-4395

※「障害」の字について、文字の印象を和らげるため、本パンフレットでは、ひらがな表記としています。

令和7年3月発行